

# 「研究活動を活性化しよう！」

臼木悦生 岡山朋子 白土 健

寺田喜朗 北條 規

井上真由美 帆足宜隆

【ファシリテーター】 村上興匡



# はじめに …… 社会の変化 と 研究の変化

大正大学の歴史	年	1926年 (創立)	1949年	1993年 (学部・学科改組)	2010年	2016年 (創立90周年)
	学部数	1学部	2学部	2学部	4学部	6学部
学部名	文学部	仏教学部 文学部	人間学部 文学部	仏教学部 人間学部 文学部 表現学部	仏教学部 人間学部 文学部 表現学部 地域創生学部 心理社会学部	

社会的ニーズの変化	個々のテーマ (個別研究)	➔	社会問題のテーマ (社会のニーズに適った研究)		
研究の変化	アカデミックな研究 (専門研究が主)	➔	学際的な研究 (プロジェクト研究、異分野*との協働)		
研究の活性化	社会的ニーズ の変化	↑	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     学際研究(プロジェクト研究・協働研究)                      基礎研究・基盤研究(個別研究・専門研究)                 </div>	↑	研究の変化

\*異分野・・・①他コース、学科、研究科、②他大学、国際共同、③産官学民 等



# 産官学民協働・学際的プロジェクト ピコ水力・バイオマスエネルギー利活用研究

防災トイレプロジェクト (長井市)

② 下水管音姫充電 (豊島区等)

④ 木製ピコ水車 (登米市)  
ピコ水力発電 → LED照明 (トイレ誘導灯)・道の駅もくもくランド

→ ネパール、ラオス、インドネシア等

⑥ おかえりやさいプロジェクト

木製水車プロジェクト

③ ピコ資源エネルギー回収 (長井市)

① 準用河川ピコ水力発電 → モデル防災トイレ・かわと道の駅

バイオマスプロジェクト

フラワー長井線

ピコ

産: 那須建設、中越工業、木工製作、電子機械、他

官: 長井市、国交省、他

学: 環境学、流体力学、電気工学、社会心理、社会学、宗教学、法学、経済学、等

民: 置賜自給圏推進機構、レインボープラン推進協議会、等

路灯

## 人文学系の教員の立場から

- 大正大学の体制
  - 人文学系から理系を含めた大学へ
- 産学連携の共同研究の経験
  - 少ない教員が多いのでは？
- 共同研究をする意義
  - 学問的な意義 + 教員としてのインセンティブ

### 【課題】

- 情報の共有（研究交流や情報交換の場）
- 事務的労力の省力化
  - 学術発表会のあり方...懇親会もセットで開催  
(研究者同士の交流会)

# ・企業と大学との連携の可能性





# 大学における共同研究

共同研究は、大学の教職員と民間機関等の研究者が、契約に基づき、対等の立場で共通の課題について研究に取り組むことにより、優れた研究成果が生まれることを促進する制度です。



## 研究形態と共同研究員

### (1) 大学における共同研究

民間機関等から研究者及び研究経費等を受け入れ、大学の教職員と民間機関等の研究者が、共通の課題について**共同して行う研究**です。

### (2) 大学及び民間機関等における共同研究

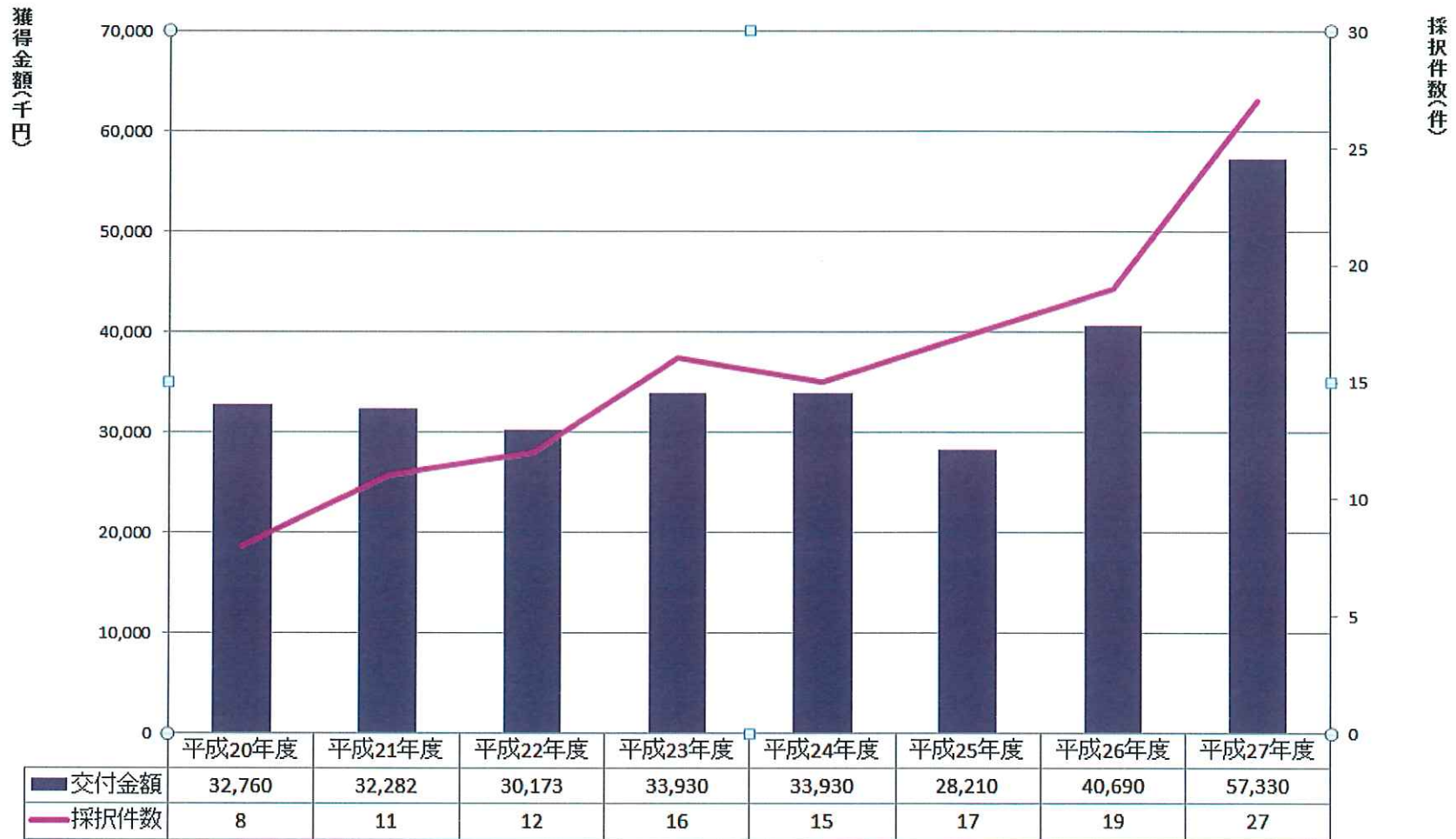
民間機関等から研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受け入れ、大学及び民間機関等が、共通の課題について**分担して行う研究**です。

### (3) 民間等共同研究員

民間機関等において、現に研究業務に従事しており、共同研究のために在職のまま**大学に派遣される**方です。

# 大正大学科学研究費助成事業 獲得状況

図1





# 大正大学科学研究費助成事業 獲得状況

図2

年度	交付金額 順位 <sup>*1</sup>	新規+継続			配分額	間接経費	合計	内訳			新規 採択件数	新規 採択率	申請件数
		採択件数	女性比率 <sup>*2</sup>	若手比率 <sup>*3</sup>				基盤(A)	基盤(B)	基盤(C)			
H27	117	27	29.6%	25.9%	44,100	13,230	57,330	2	0	16	11	33.3%	33
H26	146	19	21.1%	15.8%	31,300	9,390	40,690	2	1	14	7	26.9%	26
H25	183	17	35.3%	—	21,700	6,510	28,210	2	3	11	6	35.3%	17
H24	156	15	26.7%	—	26,100	7,830	33,930	1	4	5	5	27.8%	18
H23	146	16	37.5%	—	26,100	7,830	33,930	0	4	8	5	31.3%	16
H22	143	12	33.3%	—	23,510	6,663	30,173	1	4	5	3	15.8%	19
H21	135	11	36.4%	—	25,040	7,242	32,282	1	1	6	5	41.7%	12
H20	131	8	25.0%	—	25,200	7,560	32,760	1	3	3	4	28.6%	14

※1 大妻女子大学科研費情報【全国学校別 科研費採択件数・配分額一覧表(私立学校)(文部科学省発表)】参照

<http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/jyosei/joseikin/kakenhi/seido/data.html>

※2 女性比率は「採択件数」に占める女性研究者が採用となった件数の割合(※1サイト参照)

※3 若手比率は「採択件数」に占める39才以下の研究者が採択となった件数の割合(※1サイト参照)

## ◆トピックス

① 平成27年度科学研究費交付金額(私立大学) …… 117位

② 平成27年度科研費細目別採択件数上位10機関\*

……宗教学 全国 5位(私立大学2位)

\* 過去5年の新規採択の累計数



# 「総合的研究支援体制」の構築

— 個人技から組織的な支援へ —

構成

研究者への総合的な支援



教員

+

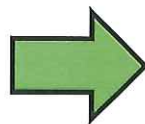
研究推進課

+

専門的研究マネジメント  
(URA等)

## 《ミッション》

1. 研究活動活性化への取組み
2. 本学の特色を活かした外部資金獲得に向けた体制づくり
3. 若手研究者育成のための取組み



## 《取組み》

- ・学長裁量経費の活用
- ・URAの配置
- ・学内横断型共同研究の推進
- ・学術情報交流会の開催
- ・外部資金説明会、申請勉強会、希望者対象添削会 等

# よりよい研究環境をつくるために

- 原則的には**学務と研究に教員が割く時間は50:50とする**のが望ましい。

↓ なぜなら・・・

- 高校においては1コマの授業にその3倍の時間の予習を要すると言われている。
- 労働基準法に規定されている労働時間は月160時間。
- 仮に大学で週5コマ担当し、そのために同時間の準備を要するとすると、月授業だけで90時間必要(1.5時間×5コマ×4週×3倍=90時間)
- その他、学生指導、学生相談、各種委員会、各種会議、学務に関する事務等々に要する時間が加算される。個人差があるが月20時間とする。すると学務だけで110時間要する計算になる。労働時間の68.75%。
- つまり、本学では、研究に使える時間は月あたり50時間、労働時間の31.25%しかない。もともとのエフォートが31.25%ということは、エフォート15%の研究を2つ抱えると労働時間をほぼ使い果たす。
- 上記に公共機関の外部委員などの社会貢献活動は含まれない。
- しかし、そういったことはあえて言わないのが「裁量労働」という考え方。
- さらに**研究の事務仕事だけでも合理化**されるとよい(→研究補助員・URAの雇用)。

# 「研究活動の充実」をめざして

(大塚学長所信表明より)

## 5つの取り組み

- ①大学院における研究者育成、並びに附置研究所における研究体制の検証と改善
- ②研究倫理教育の推進
- ③サバティカル制度の検証と充実
- ④大学全体を巻き込んだ研究活動の活性化と研究費獲得のための企画立案
- ⑤国内外の大学や研究機関との国際的学術交流の充実



**「研究活動を活性化しよう！」**

ご清聴有り難うございました。